

【17 上天草市 Kamiamakusa City】



重野 貢一氏

高舞登山(たかぶとやま)展望所から

上天草市では、有明海に浮かぶ湯島をはじめ、有明海と八代海の間に並ぶ大矢野島や天草松島、天草上島といった島々のビーチや漁港、天草五橋や展望所など、市内各地から有明海越しに“**南面～南東面の雲仙岳**”が眺望できます。地域で踊りに合わせて歌われる“松島ドント節”や“龍ヶ岳音頭”にも**雲仙岳**が登場し、地域で親しまれてきたことが分かります。

天草上島では、高舞登山や千巖山、千元森嶽、太郎丸・次郎丸嶽、白嶽や龍ヶ岳などの展望所から↑の写真のような松島の島々越しの**雲仙岳**が眺望でき、雲仙天草国立公園のメインテーマである“**水陸の大展望**”が堪能できます。**雲仙岳そびえる島原半島**はユネスコ世界ジオパークに、天草諸島は日本ジオパークに認定され、大地の活動と関連付けて両地域の自然や文化が楽しめるようになっており、隣接する宇城市(三角町)と共に雲仙天草観光圏を形成しています。また、空気が澄んでいれば、上記の山々から**阿蘇山**も眺望でき、**阿蘇山と雲仙岳**の間の歴史的な**大三角形**(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

雲仙岳の山岳宗教は、701年に僧・行基によって開かれたとされますが、行基は初め天草方面から**雲仙岳**を眺望し、“あそこで修行をしよう”と決意して島原半島に向かったと言われています。

その後、中世の時代には両地域ではキリスト教の布教が進み、キリシタン大名のもと、南蛮貿易で繁栄しましたが、豊臣秀吉・徳川家康によるキリスト教禁教以降、領主の交代も相まって、厳しい信徒弾圧や過酷な徴税によって領民の不満が高まって行き、有名な“島原・天草一揆”へと突き進みました。この一揆の計画談合は、両地域の間にある湯島(別名“談合島”)にて行われました。

両地域で一斉蜂起した一揆軍は、やがて**雲仙岳南麓**の原城に集結し、籠城して善戦しましたが、約12万人の幕府軍の前に敗れ、一揆軍約37000人はほぼ全滅しました。これにより、両地域の一部には史上空前の“無人地帯”が発生し、幕府は九州諸藩(肥後細川藩を含む)や全国の天領に命令を出して住民を集めたため、両地域には多様な文化がモザイク状に分布する独特の風土が形成されました。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、上天草市内を旅してみませんか？

- 上天草市の観光情報はこちら ⇒ 天草四郎観光協会 <http://kami-amakusa.jp/>
天草ジオパーク推進協議会 <http://amakusa-geo.amakusa-web.jp/MyHp/Pub/>



カール ジェンソン氏

千元森嶽から



榎 光義氏

4号橋脇のホテルから